

(仮称) 北統合中学校 (中和小・萬歳小・古城小) 学校再編地域検討会議

検討結果

旭市学校再編基本方針の(仮称)北統合中学校について、干潟中学校 学校再編地域検討会議において検討した結果、下記のとおりとなった。

旭市学校再編基本方針のとおり、琴田小・共和小・中和小・萬歳小・古城小の5つの学区を対象に、中学校を新設することに「賛成多数」となった。

【検討の経緯と理由】

干潟中学校は、昭和22年の創立以来、2回の統合といった変遷をたどりながら、地域と共に歩んできた歴史と伝統があり、地域に根付き親しまれてきた。

少子化の影響により、令和7年度の生徒数は142名(6学級)となり、各学年単学級になることが現実的となっている。

会議の中では、魅力的な新しい学校づくりを望む意見や、生徒数の減少を踏まえると統合自体は賛成という意見があった一方で、5つの学区だけで中学校を新設することについては、統合後の生徒数のバランスや中学校の新築費用を懸念する意見があった。

検討の結果、旭市学校再編基本方針のとおり、琴田小・共和小・中和小・萬歳小・古城小の5つの学区を対象に、中学校を新設することに対しては、学区の見直しを求める意見があったものの、早期の再編を望むことから「賛成」とする意見が多い結果となった。

【基本方針とは異なる委員の意見】

学区の見直し

（仮称）北統合中学校を新設するのであれば、5学区だけでは生徒数が少なく、（仮称）南統合中学校との格差もあるため、（仮称）旭地域西小学校（干潟小・豊畑小）も学区に編入するなど、学区の見直しを検討してほしい。

第二中と海上中を活用

将来的な生徒数の推計を踏まえると、再編後の中学校の配置数は2校が適切だと考えるので、新設はせずに、スクールバスを活用して二中または海上中に通学することを検討してほしい。

【各候補地に対しての意見】

候補地 A

- ・統合中学校の学区のほぼ中心であり、どの学区からも自転車で通学しやすい。
- ・住宅密集地から離れているため、保護者の送迎時の渋滞緩和や周辺住民の苦情が避けられる。また、周辺道路の拡張もしやすい。
- ・河川や交通量の多い幹線道路から距離があるため、通学の安全性が確保しやすい。
- ・過疎債が活用できるため経済的に有利。

候補地 B

- ・統合中学校の学区の西側となるが、住宅密集地から離れているため、保護者の送迎時の渋滞緩和や周辺住民の苦情が避けられる。
- ・干潟地域に建設した場合、過疎債が活用できるため経済的に有利。
- ・広域農道沿いは交通量が多く、通学や送迎に危険を伴うため避けたい。
- ・（仮称）旭地域西小学校（干潟小・豊畑小）の学区を含めるなら、この場所が良い。

候補地 C

- ・統合中学校の学区の人口重心に近い。
- ・広域農道沿いは交通量が多く、通学や送迎に危険を伴うため避けたい。

候補地 D

- ・ 統合中学校の学区のやや東側であり、琴田小・共和小寄りになっている。
- ・ 広域農道沿いは交通量が多く、通学や送迎に危険を伴うため避けたい。

その他

- ・ いずれの候補地においても、通学路の整備など安全対策を十分に行ってほしい。
- ・ 中学校を新築する場合は、給食センターの併設も検討してほしい。
- ・ 中学校を選択できるように、柔軟な学区の運用を検討してほしい。

【会議の概要】

第 1 回 (R7.7.7)	(1) 旭市学校再編基本方針の概要について (2) 北統合中学校の現状と保護者アンケート結果について (3) 意見交換
第 2 回 (R7.8.8)	(1) 統合校の位置について
第 3 回 (R7.9.22)	(1) 再編の可否について
第 4 回 (R7.10.27)	(1) 検討結果の報告書(案)について
第 5 回 (R7.12.1)	(1) 検討結果の報告書(案)について

令和 7 年 12 月 1 日

旭市教育委員会